

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)信愛医療療育センター	階数	地上2F
建設地	愛知県豊川市	構造	RC造
用途地域	市街化調整地域	平均居住人員	193 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年5月30日
敷地面積	7,266 m ²	作成者	加藤(原)垂野
建築面積	2,635 m ²	確認日	2016年5月30日
延床面積	4,034 m ²	確認者	神谷昌男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>19.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	19.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	19.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				3.2	0.15	2.8	1.00	3.1
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40	3.0
1 開口部遮音性能				3.6	0.40	2.5	0.40	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				4.0	0.60	4.0	0.30	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	1.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	0.20	3.0
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				2.8	0.25	3.3	1.00	2.9
2.4 3.0				2.4	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率				2.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口				3.0	0.40	3.0	0.40	
3 昼光利用設備				3.0	0.30	3.0	0.30	
3.2 グレア対策				3.0	1.00	3.0	1.00	
1 昼光制御				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.3 照度				3.0	0.25	3.0	0.25	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				3.0	0.25	3.1	1.00	3.0
1 化学汚染物質				3.0	0.50	3.0	0.63	
2 アスベスト対策				3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.30	3.3	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				4.0	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.30	4.4	1.00	3.2
1 広さ・収納性				3.0	0.40	5.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	3.0	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観				3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				3.4	0.31	-	-	3.4
1 耐震性				3.8	0.48	-	-	
2 免震・制振性能				4.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.1	0.33	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				4.0	0.15	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.23	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.19	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.1	0.29	3.4	1.00	3.2
1 階高のゆとり				4.6	0.31	3.8	0.50	
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.60	5.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.40	2.0	0.40	
3.3 設備の更新性				2.0	0.31	3.0	0.50	
1 空調配管の更新性				3.0	0.38	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.17	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.11	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22	-	-	

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	2.2
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.5	0.30	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.81		4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI _m =0.73		4.0	1.00	-	-	4.0
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				2.5	0.20	-	-	2.5
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水		節水型器具の採用		3.4	0.15	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.0	0.40	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				3.1	0.63	-	-	3.1
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.24	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				4.0	0.20	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	再生骨材の路盤使用、外構用タイル		3.0	0.05	-	-	
				3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用		建築基準法を満たしている		3.6	0.22	-	-	3.6
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.32	-	-	
1 消火剤				3.0	0.68	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:78%		3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止				2.3	0.33	-	-	2.3
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.50	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			2.3	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.33	-	-	
				2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.33	-	-	3.0
1 騒音	独自			-	-	-	-	
2 振動	独自			-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.67	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.33	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート
 (仮称)信愛医療療育センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:19.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 信愛医療療育セン

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 明確なゾーニングとし、1階は外来者が多く利用する外来診療や通所ゾーンと、管理・サービス部門は動線が交錯しないよう配慮しました。また2階の入所施設は静かな環境の確保を目指しました。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 重症心身障害児者施設ということであり、体温調整に支障のある方の利用も想定されるため、良好な室内環境を確保するよう配慮しました
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 生活の場となる入所の居室は、十分な広さを確保しました。天井高さも2.5m以上、共用部分ではそれ以上の高さになっています。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 2階の入所者用共用部分の前に広いテラスを設けたり、1階通所施設や保育所から庭に出られるような配慮をしています。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物の外皮性能について、モデル建物法[BPI _m]での評価は0.81、建物の一次エネルギー消費量について、モデル建物法[BEI _m]での評価は0.73となっています。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 リサイクル材として、再生骨材の路盤使用、外構用タイルなどを採用しています。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 豊川市の定める日影規制を満たす計画としました。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。